



ここでは
かなしさだけが
舞っている

白い花びら

JUHA

20世紀最後の
サイレント映画
アキ・カウリスマキ監督
最新作

1999年ベルリン映画祭フォーラム部門出品作品
監督・製作・脚本・編集=アキ・カウリスマキ
原作=ユハニ・アホ
出演=サカリ・クオスマネン/カティ・オウティネン
アンドレ・ウィルムス ほか
1998年/フィンランド映画/モノクロ
音楽つきサイレント/1時間18分
配給=ユーロスペース

アキ・カウリスマキ ゴーズ・サイレント

◆世界各国でヒットし、多くの人々に生きるユーモアと淡い幸せを与えたあの『浮き雲』の公開から3年。昨年のベルリン国際映画祭でも圧倒的な人気を博したカウリスマキの最新作『白い花びら』がいよいよ公開される。しかも今回のアキ・ワールドはなんとサイレント映画(音楽付き)。前作『浮き雲』で堪能した映画的な気分は見事はざされたが、CGによる映像処理や簡便なデジタル撮影が映画のメインストリートを席卷しようという時代に、反時代的ともいえるサイレント映画を飄々と撮ってしまうその悪童ぶりには、やはりベルリンっ子でなくとも大喝采を送ってしまう。吉とどるかあるいは…。そこには彼一流の反骨精神が脈打ち、世の映画産業とは無縁のカウリスマキだけが知る気持ちよい風が吹き渡っている。

それは白夜のように、うつくしい悲喜劇

◆風が光る田舎道をバイクで走る晴れやかな夫婦ユハとマルヤ。ふたりはキャベツを積んだバイクで村外れの市場を目指す。市場はにぎわい、二人で育てたキャベツが飛ぶように売れていく。手を取り合い子供のように喜ぶユハとマルヤ。そして、この無垢な森が育んだあわせな光景を一枚の字幕が暗示する…。『ふたりは子供のように幸せでした』ある日、この静かな村へオープンカーに乗るひとりの男(シメイッカ)がやってくる。そしてマルヤに囁く。「あんなみすばらしい男の妻だって？君はあんな奴にはもったいないほど美しい」◆原作はフィンランド文学の国民的作家ユハニ・アホ(1861-1921)が1911年に発表した小説の映画化で、過去3度も映画化されている。それだけにフィンランドではこの悲劇の物語を知らない人はいないほどだ。ユハニ・アホの原作は16世紀から18世紀頃のカレルの森を舞台にしたある夫婦の不幸な結婚の物語で、体に障害のある年老いた男と若い妻、そしてカサノバのようなロシア人セールスマンとの三角関係を描いている。カウリスマキはこの原作を忠実にたどりながらも現在と過去との境界をあいまいにし、すべての時代に見え隠れする生ある者の悲しみを提示する。

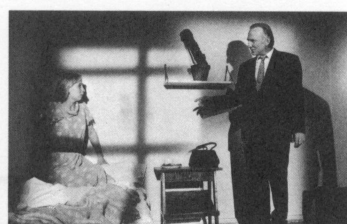
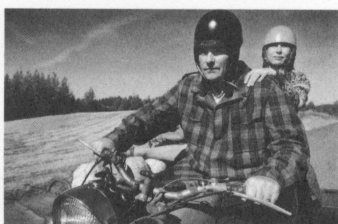
20世紀最後を飾るサイレント映画への船出

◆カウリスマキはだいぶ前からこの小説を映画化する構想をもって、最初はポルトガルの山間部を舞台にして撮ろうとしていたが、ポルトガルの風土や習慣を熟知しなければ到底この物語の悲劇は撮れないと諦める。ところが今回オリジナルの曲を手がけたアンシ・ティカンマキとの共同作業によって20世紀最後を飾るサイレント映画への船出が始まった。

◆「映画はしゃべり始めてからずっと退化しつづけているという指摘をした人がいたが、確かにその通りで、映画そのものであるストーリーの純粋さを言葉の厚かましさに消してしまっている」今回のプロジェクトを立ち上げる際のカウリスマキのキーワードでもあり、彼の胸の中でいつも埋み火のように燃えていた想いだった。しかし、そのストーリーを映像で表現するための苦労は並大抵ではなく、たとえばカット割りは『浮き雲』の2倍を必要としている。

そして今回、カウリスマキは『白い花びら』を撮るために数え切れないほどのサイレント映画を研究したようだ。たとえば、ダグラス・フェアバンクスやキング・ウィグダー。グリフィスの『散り行く花』やムルナウの『サンライズ』フラハティの『極北のナマーク』チャップリンの『巴里の女性』ドヴジェンコ『大地』シュトロハイム『結婚行進曲』…などなど。カウリスマキは映画の歴史を歩くことによって、ついに20世紀最後のサイレント映画にたどり着いたといえるだろう。

◆主演ユハにはレニングラード・カウボーイズでお馴染みのサカリ・クオスマネン。『浮き雲』では実直さが取り柄のイロナの元同僚を好演したが、今回の『白い花びら』ではフィンランドの森が生んだ骨太で無垢な農夫を演じている。穏やかで平和な生活から一転して悲劇のマルヤを演じるのは『マッチ工場の少女』『愛しのタチアナ』『浮き雲』などカウリスマキ的世界の構築になくはならないカティ・オウティネン。そして、シメイッカを演じるのは『ラヴィド・ポエーム』『レニングラード・カウボーイズ・モーゼに会う』でアキ・ワールドの中にあつてその異邦人ぶりを発揮するアンドレ・ウィルムス。



白い花びら JUHA

8月19日(土)から9月1日(金)までロードショー

特別前売鑑賞券1400円(当日一般/1700円)にて発売中!

20世紀最後のサイレント・フィルム「白い花びら」公開記念

◆アキ・カウリスマキ ゴーズ・ニッポン!◆

未公開作品『パラダイスの夕暮れ』『ハムレット・ゴーズ・ビジネス』や大ヒット作『浮き雲』を含むコレクション15本によるアキ・カウリスマキ・バラエティ・ショー!
上映日程&上映時間は劇場までお問い合わせ下さい。



ホワイトヒル馬場の広場M-10右とがる乗へ5分
扇町ミュージアムスクエア
☎06・6361・0088 www.oms.gr.jp